第４学年２組　道徳科学習指導案

１　主題名　みんなの場所で〔内容項目C－（１１）：規則の尊重〕

　　＜教材名　「このままにしていたら」＞出典：「きみがいちばんひかるとき道徳４年」光村図書

２　ねらいとする価値について

　　児童が成長することは、所属する集団や社会を構成する一員として、その場におけるさまざまな規範を身に付けていくことでもある。その過程で、約束や法、きまりを進んで守ろうとする意欲を高めていくことは重要である。一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまり、公共物や公共の場所とのかかわりについて考えることで、相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分に考えることが必要であると考える。

３　子供の姿

　　本学級の児童は、チャイム着席や授業準備などの学習のきまりについて守ろうと意識して行動できる児童が多い。学校生活の中でのきまりについて、行動できたことに対しては、ほめ、不十分な場合には、きまりの意義について話してきた。ただ、きまりの意義について自分で考えて行動できる児童は少なく、「きまりになっているから守る」という捉え方をしている。また、自己中心的な行動や、その場の雰囲気できまりや約束を簡単に破ってしまうことがある。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 家庭や地域と連携した教科学習計画 | | |
| 月 | 教科 | 内　容 |
| ６  ９  10  11  12  １  ３ | 総合  社会  道徳  総合  道徳  道徳  総合  総合  道徳  道徳  総合  総合  道徳 | 「ミニビオトープ作り」  「水の循環」  「このままにしていたら」  Ｃ（11）規則の尊重  「シンパシーワークショップ」  「いのちをつなぐ岬」  Ｄ（19）自然愛護  「ぼくたちのバラ花だん」  Ｂ（７）感謝  学習発表会  「わたしたちの学校」  「エコアクション講座」  「琵琶湖のごみ拾い」  Ｃ（13）公共の精神  「祭りだいこ」  Ｃ（16）国や郷土を愛する態度  「エコアクション」  「トークセッション」  「朝がくると」  Ｂ（７）感謝 |

４　教材と指導について

　　主人公の「ぼく」は、規則を知っていたにもかかわらず、自分勝手な判断で、それを破ってしまう。このような「ぼく」の心の弱さを否定的に捉えることは簡単だが、実際に自分のこれまでの行動と照らし合わせてみると、誰もが同じような経験をしているであろう。「ぼく」の行動をやみくもに非難するのではなく、このような弱さが誰にでもあることを共感的に受け止めたうえで、公共の場における約束の意義について深く考えたい。

５　地域と連携した学習

自然が豊かな本校区には、本教材と似たような小川や用水路がある。生き物観察に意欲的に取り組んだり、飼育したりすることが好きな児童も多い。１年を通して、企業連携「環境学習プログラム」を受講し、身近な水辺の自然について学んでいく。先週、第１回目の講座が行われ、本校のビオトープの生きもの調べに意欲的に取り組み、ビオトープや生態系について興味をもって話を聞くことができた。本時では、きまりを守ることの意義について考えながら、「環境学習」と結び付け、地域の自然を大切にしていくために自分たちができることを考える気持ちを高めたい。

６　本時の学習

(１)本時のねらい

登場人物の行動と気持ちに目を向け、「ぼく」の心の変化を捉えることで、公共の場でのマナーを守ろうとする気持ちを高める。

(２)本時の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 児童の活動 | 〇伝え合うための工夫  ・その他の手立てや留意点 |
| つかむ（５） | １　学校の近くにある公共の場を思い出す。  ・「ふれあいの道」は、いつもきれいだね。  ２　本時のめあてをつかむ。  「みんなの場所」を利用するときに大切なことを考えよう | ○公共の場を具体的にイメージできるように、全員が知っている「ふれあいの道」の様子を提示する。  　　　　　　　　　　（導入の工夫） |
| 深める（35） | ３　「このままにしていたら」（P６１の８行目まで）を読んで、話し合う。  ビニール袋が飛んでいってしまったとき、「ぼく」は、どうして「まあ、いいや」と思ったのか。    ・ザリガニを釣りたくて夢中になっていたから。  ・楽しくなってきたところだったから、まあいいや。  ・小さい袋だったし、まあいいかな。  ４　続きを読んで、話し合う。  立て札の文字がどんどん大きくなってくるような気がしたとき、「ぼく」はどんなことを考えたのか。  ・ぼくができていなかったと思った。  ・ぼくに言われている言葉だと思った。  ・悪いことをして責められているような気がした。  ・ぼくだけならいいかな、と思ってしまって後悔した。  ・ルールを守っていればよかった。  ・一人が「ちょっとだけ」と思ったり、拾う人がいなかったりしたら、どんどん汚くなってしまう。  ・これからは、使う人みんなで守っていきたい。 | ・状況を捉えた登場人物の様子や「ぼく」の心情を想像できるように、話を前半と後半に分けて話す。  ・場面に沿って「ぼく」の気持ちを深く考えられるようにするため、ペープサートを使ったり、センテンスカードを掲示したりしながら話を進める。  ・「ぼく」の気持ちを考えやすくするために、立て札の文字がどんどん大きくなってくるような気がしたときの「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き込む。  ○「一人一人が気を付け、みんなで守りたい」という気持ちへつなげるために、「なぜ、責められたと思ったの？」「ゆうたくんやたっくんは、ザリガニ取りに来たのに、どうしてゴミ拾いをしたの？」と補助発問をする。  （話し合いを深める工夫） |
| 振り返る（５） | ６ 「みんなの場所」を利用するときに大切なことは何か、振り返りをノートに書き、発表する。  ・自分で出したごみは自分で片づけること。  ・みんなが使う場所は、きれいに使うこと。  ・ごみがあると、生きものにとってよくないから、ごみを捨てないことと、ゴミがあったら拾うこと。  ・一人一人が約束を守って「ふれあいの道」みたいにずっときれいで気持ちよく使える場所にすること。 | ○友達の意見や授業の内容から、どんな心をもつべきかについて、きまりを守ることの意義を一般化して捉えてふり返りを書く。  （振り返りの視点） |